



森林ふれあい情報

令和2年1月
第53号

林野庁中部森林管理局
木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

木曾悠久の森

「木曾悠久の森」スマートフォン写真コンテスト表彰式

「木曾悠久の森」は、木曾ヒノキ等で構成される温帯性針葉樹林がまとまって分布する長野県木曾郡上松町、王滝村、大桑村、岐阜県中津川市に跨がる国有林に設定しています。区域内には、森林浴発祥の地として知られる「赤沢自然休養林」や、優れた渓谷美で知られる「付知峡自然休養林」等が含まれています。

中部森林管理局では、世界的にも希少で貴重な温帯性針葉樹林の保存と復元に向けた取り組みを平成26年度から始めていますが、この森林をより多くの皆様に知っていただき親しまれるよう平成27、29年度に続き、平成31年4月27日から令和元年8月31日まで、第3回「木曾悠久の森」スマートフォン写真コンテストを開催しました。今回はより手軽に参加できるようスマートフォンで写真を撮り、メールで応募できるようにQRコードの設定なども行いました。

開催期間中には、27名の方々から53作品が寄せられ、樹齢300年を越える針葉樹等の雄姿をはじめ、森林を流れる滝や沢、川べりに咲く花、さらには森林浴やレジャーなど森に親しむ人たちの様子や森林の豊かな表情をとらえた見事な力作が集まりました。その後、審査会において応募作品の中から優れた10作品を入選作品とし、このうち一般の部、小中学校の部の各1点は最優秀賞として選定しました。

10月6日（日）、森林浴大会の参加者で賑わう赤沢自然休養林において、入選作品の表彰式を行い、中部森林管理局 流域管理指導官から写真コンテストの入選作品の紹介に



小中学校の部 最優秀賞作品「樽のしぶき」



一般の部 最優秀賞作品
悠久の森で兄弟仲良く「優休」

続き、最優秀賞に選ばれた石川 孝一 様、早川 楽人 様をはじめ入選された方々に共催団体の代理として、当センター所長等から賞状及び副賞が贈呈され、会場に集まった方々からの祝福とともに大きな拍手に包まれていました。表彰式後は、ご家族も一緒になっての自然休養林内の散策を楽しみました。

また、自然休養林へ訪れた方にも入選作品をご覧いただけるよう赤沢自然休養林内の森林交流センターに展示を行いました。

今後も多くみなさまに「木曾悠久の森」が浸透されていくよう各種の取り組みを進めていきたいと考えています。

森林ボランティア・NPO連携推進会議

10月25日（金）、26日（土）の2日間、長野県北安曇郡松川村内の「リンリンパーク」において「森林ボランティア・NPO連携推進会議」をボランティア団体代表による実行委員会が主催、中部森林管理局の後援で開催しました。

これは、中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア団体やNPO法人が一堂に会し、互いの交流や市民参加型のワークショップを実施するイベントの開催を通じ、資質の向上と連携強化を図るとともに、一般市民の皆さんに、国民参加の森林づくりへの理解や森林環境教育の重要性をPRすることを目的に開催しているもので、6団体と局署職員併せて22名が参加しました。

1日目の開会式には中信森林管理署長の挨拶で始まり、開会式後は参加団体の見識を広げるため、中信森林管理署管内の治山工事現場の視察を予定していましたが、豪雨のため中止にしたことから、急きょ園内の野外ステージに場所を移し、ワークショップ等で初対面の人間同士が出会う時、その緊張をほぐすための手法の一つ、アイスブレイクを全員で実践し見識を広めました。その後も雨が降り続く中で、参加者全員が雨合羽を着用し、明日の会場準備とそれぞれ担当するブース毎に分かれての打合せを行い、1日目を終了しました。

2日目は前日の豪雨から、一転して薄日が差し込む曇り空の下で「森・ふれあいフェスタ」の開催となりました。

当日は松川村の「村制130周年」イベント行事が開催されている中で、ミニイス作りや木工細工など8個のブースを設営し、訪れた一般市民約290名の方に様々な体験を楽しんで頂き、多くの親子連れの方々から「楽しかった」との声が聞かれました。

また、参加されましたボランティア団体の皆さんも、2日間を通して充実した連携・交流の場となりました。



開催の挨拶を行う西川中信森林管理署長



ミニイス作りを楽しむ参加者達



ヒノキのカンナくずプールで楽しむ子供達

木曽の国有林見学会(令和元年秋季)



木曽ヒノキ大樹の説明を受ける参加者

10月29日(火)、木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曽川下流域の住民を対象とした「木曽の国有林見学会(令和元年秋季)」を開催しました。

この催しは、江戸時代から深い繋がりを持つ木曽地域と木曽川下流域との関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、木曽川下流域住民の方々に、木曽川源流域の国有林を訪ねてもらい、木曽地域の林業の歩み、木材輸送(伐採地、小谷狩り、森林鉄道)等名古屋市の白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の出材地を実際に見聞きし「400年の歴史」を体感、日本の森林・林業の現状に

ついて理解を深めていただくとともに、木曽地域の支援を目的として開催し、名古屋市内を中心に40名の方が参加しました。

また、見学会をより有意義なものにさせていただくため、名古屋事務所が10月24日(木)に「熱田白鳥の歴史館」において、参加希望者を対象に名古屋市熱田区に貯木場があったこと、木曽地域との関係や赤沢自然休養林の概要などを写真や映像を使い理解を深めるための事前学習会を開催しました。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、参加者達は名古屋事務所隣接の「熱田白鳥の歴史館」を出発し、移動するバスの中で森林鉄道や木曽ヒノキに関する映像を見ながら赤沢自然休養林に向かいました。

到着後は昼食をすませ、森林鉄道に乗車し木曽ヒノキの森林・紅葉と溪流が織りなす絶景を眺めながら終点の「丸山渡停車場」へ移動し、その後4班に分かれガイド役の当センター職員4名により、歴史とともに育まれてきた樹齢三百年余りの木曽ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策しながら、木曽の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曽五木の見分け方や特徴などを楽しみながら学びました。

散策後には、参加された方々に来年度以降の見学会の開催について、簡単なアンケートの記入をしていただきました。

参加者からは、ほぼ全員の方から「参加して良かった」「引き続き継続を望む」との回答が得られたとともに、感想についても「事前学習会もあり勉強になりました」「今度は良い天気にも再度ゆっくり来たいです」と多くの方が書かれていました。

今後も開催にあたり参加者からの意見を企画に反映させ、より意義ある催しとなるよう努めて参ります。



雨の中、森林散策を楽しむ参加者

森林ボランティア作業支援

城山史跡の森



倶楽部会員による電気柵撤去作業

11月20日（金）城山史跡の森倶楽部による城山国有林においてササユリ、カザグルマ自生地整備作業及び小鳥の巣箱撤去作業に当センター職員も協力して実施しました。

当日は天候にも恵まれ暖かな日のなか、作業にあたっては同倶楽部から9名、当センター職員3名が参加し、整備等の作業を行いました。

城山史跡の森には長野県指定希少野生動物植物であるササユリやカザグルマなどが自生しており、当センターでは城山史跡の森倶楽部と連携しながら貴重な植物の保護等にも取り組んでいます。

まず最初に、全員でササユリ自生地整備作業を行いました。ササユリ自生地は、数年前から野生動物による食害が見られたことから、平成28年度から同倶楽部の会員の皆さんとともに、食害防止対策として電気柵の設置をおこなっており、春に設置した電気柵を撤去する作業と被陰する植物の刈り払いを行いました。今年も設置から毎月1回の点検を兼ねての見回りをしたところ、電気柵の設置により野生動物による食害は見られませんでした。その後、2班に分かれ小鳥の巣箱撤去とカザグルマ自生地の整備を行いました。小鳥の巣箱点検作業は、平成21年度から毎年実施しており、森林に多く棲むシジュウカラなどの小型鳥類を対象に巣箱を設置しています。今回の作業では、昨年度設置した巣箱を取り外し、巣箱の営巣や利用した形跡を確認しました。

また、カザグルマ自生地では、老朽化した支柱を新しい竹の支柱に交換する補修作業を実施しました。

今年度、最後の整備作業となりましたが、引き続き同倶楽部と連携を図りながら整備や保護に取り組んでいきたいと考えています。



ササユリを被陰する植物の刈り払い作業



カザグルマ自生地での支柱整備作業

地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」では、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に木曾郡上松町赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムが行われ、その後「ふれあいの森（名称：『太樹の森・赤沢』）」を設定してからは、毎年春と秋に森林整備を行っています。

今回、10月19日（土）、20日（日）に行われた「山と緑の協力隊」第221回プログラムでは男性21名、女性7名の参加者が4班に分かれ、樹齢27年生の人工林ヒノキの除伐作業等を行いました。

19日は、降雨により赤沢自然休養林の散策で終わりましたが、20日は晴天に恵まれ除伐作業を行うことができました。

参加者の中には山仕事に慣れてこのプログラムに参加した方もおり、一生懸命にノコギリを引いていました。



玉切り作業を行う参加者



除伐作業を行う参加者

当センターでは木曾森林管理署と連携を図り、伐倒方法の手順、かかり木処理の方法など安全に作業を行うための指導や道具の貸出を行いました。2日目の作業終了後、平成17年に行われた「第62回御杣始祭みそまはじめさい」の御神木の伐倒跡地に移動し、御神木の選木条件、三つ紐伐りみつひもきり等の説明を受け無事に終了することができました。

「1日だけの作業だったが、いい汗を流すことができた」と言う参加者もおり、今後も連携を図っていきたいと考えています。